

# 継続事業評価調書

## 【道路事業】

一般県道 竜泉那波線

県土整備部

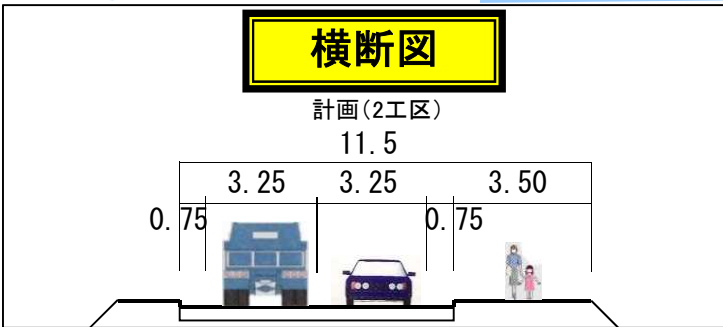
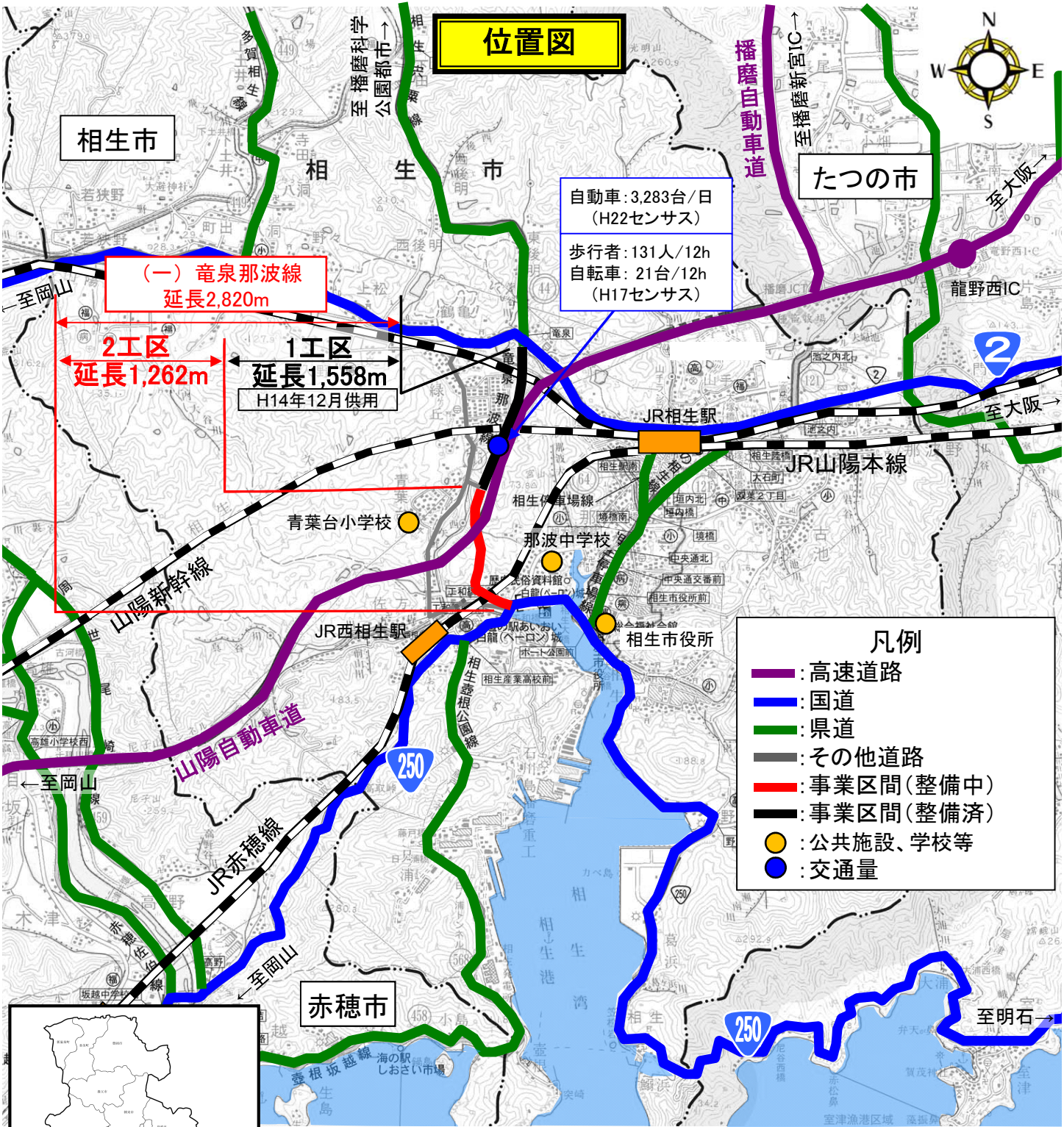
土木局 道路街路課

投資事業評価調書（継続：再評価〔第3回〕）

部課室名	県土整備部土木局 道路街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	道路街路課長 嶋田 博文 (県道班長 吉村 達郎)	内線	4362 (4376)
事業種目	道 路	新規評価年度	—	今回評価	前回評価
事業名	道路事業 一般県道 竜泉那波線 <small>りゅうせんなば</small>	事業採択年度	平成9年度	総事業費	72億円
		着工年度	平成9年度	内用地補償費	17億円
		再評価年度	平成23年度	完成予定年度	平成33年度
事業区間	あいおいしりゅうせんちよう なばみなみほんまち 相生市竜泉町～那波南本町	進捗率 (内用補進捗率)		63% (96%)	60% (95%)
		残事業費		27億円	29億円
事業の目的			事業内容( ): 前回評価時点		
<p>本路線は、西播磨地域の東西幹線道路である国道2号と国道250号を、相生市西部で南北に結ぶ新設の幹線道路である。</p> <p>○安全で円滑な交通の確保 相生市街地中心部に流入する通過交通を転換し、市街地の交通混雑の緩和と交通事故の抑制を図り、安全で円滑な交通を確保する。</p> <p>○地域間交流と産業基盤の強化 播磨科学公園都市と相生市臨海部や赤穂市を直結することで、地域間交流を促進するとともに、産業基盤を強化し地域の活性化に寄与する。</p> <p>○緊急輸送道路の代替経路の確保 過去に冠水被害を受けた緊急輸送道路(相生停車場線等)の代替機能を確保する。</p>			<p>【延長】2,820m [1工区:1,558m(H14供用済)、2工区:1,262m]</p> <p>【構造規格】第3種第2級 【計画幅員】 1工区:2車線 両側自歩道4.0m 車道6.5m [全幅16.0m] 2工区:2車線 片側歩道3.5m 車道6.5m [全幅11.5m]</p> <p>【計画交通量】7,100台/日 [H42年予測] (6,800台/日 [H42年予測])</p> <p>【供用済区間交通量】 自動車:3,283台/日 [H22センサ] (自動車:3,283台/日 [H22センサ]) 自転車:21台/12h [H17センサ] (自転車:21台/12h [H17センサ]) 歩行者:131人/12h [H17センサ] (歩行者:131人/12h [H17センサ])</p> <p>【負担割合】国50%、県50%</p>		
事業を取り巻く 社会経済情勢 等の変化	赤穂市へのアクセス強化となる国道250号坂越道路が平成28年3月に供用開始した。 【前回評価時点からの事業計画の変更概要】 用地買収において、価格の開きで用地交渉に時間を要していることから、完了予定年度を平成33年度に変更する。				
進捗状況	①進捗率は事業費ベースで63%、用地取得で96%(平成28年度末予定)。 ②1工区(延長1,558m)は、平成14年度に供用済み。 ③2工区(延長1,262m)は、平成15年度に着手し、現在、用地買収及び工事を進めている。 残る用地の早期取得を目指し交渉中。				
評価視点	評価結果の説明				
審査会意見及び対応方針 (H23再評価)	【審査会意見】 継続妥当 全線供用による事業効果の発現に向け、 早期の事業完成に努められたい。		【対応方針】 用地取得を急ぎ、今後早期完了を目指す。		
(1)必要性	①相生市街地中心部の県道・市道では交通混雑や交通事故が多発しており、本路線の整備により、市街地に流入する通過交通を転換し、交通混雑の緩和と交通事故の抑制を図り、安全で円滑な交通を確保する。 ②国道2号、県道相生穴栗線と国道250号を直結する本路線の整備により、播磨科学公園都市と相生市臨海部工業地域、さらには赤穂市街地を結ぶネットワークを形成し、地域間交流の促進や産業基盤の強化を図る。 ③過去に冠水被害を受けた緊急輸送道路である県道相生停車場線等を回避し、市街地中心部へアクセスできる代替経路を確保する。				
(2)有効性・効率性 (執行環境状況)	①費用便益比B/C=1.6(全体)(前回評価時点B/C=2.0)、B/C=4.7(残事業) ②西播磨市町長会等から事業推進の要望書が提出されるなど早期整備が期待されている。				
(3)環境適合性	①通過交通を本路線に転換することにより、中心市街地の交通渋滞が緩和され、沿道環境が改善される。 ②歩道舗装には、雨水が地中に浸透する透水性舗装を採用し、地下水涵養を図る。				
(4)優先性	本事業区間2.8kmのうち1工区の1.5kmが既に供用しており、また、平成29年度より相生市が2工区へ取付く道路整備に着手する予定であることから、一体的に整備推進する必要がある。				
再評価の結果	継続	理由	事業の必要性は事業採択時と変わっておらず、当該区間の早期供用を望む地元の声が強いため、継続して事業を実施する必要がある。		

事業進捗状況概要図（継続：再評価〔第3回〕）

事業名	道路事業	路線・河川名	一般県道 竜泉那波線
<p>相生市 赤穂市 たつの市</p> <p>（一）竜泉那波線 延長2,820m</p> <p>2工区 延長1,262m</p> <p>1工区 延長1,558m H14年12月供用</p> <p>播磨自動車道 山陽自動車道</p> <p>JR相生駅 JR山陽本線 JR赤穂線</p> <p>龍野西IC 至大阪 至岡山</p> <p>青葉台小学校 那波中学校 相生市役所</p> <p>至岡山 至明石</p> <p>凡例</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>黄色 : H9～23</li> <li>オレンジ : H24～28</li> <li>赤色 : H29～33</li> </ul> <p>事業箇所</p>			
事業進捗状況・予定		整備効果	
全体 (H9～H33)	<p>【事業費＝72億円】</p> <p>延長 2,820m</p> <p>橋梁 3 橋 (竜泉橋 13.0m、みどり橋 23.5m、JR 赤穂線 跨線橋 18.0m)</p> <p>用地約 100,100m<sup>2</sup></p> <p>(1 工区 : 52,700 m<sup>2</sup>、2 工区 : 47,400 m<sup>2</sup>)</p>		
前回再評価まで (H9～H23)	<p>【事業費＝43億円】</p> <p>①事業進捗率60% (用地進捗率95%)</p> <p>②用地取得面積約95,300m<sup>2</sup> (面積ベース進捗率95%)</p> <p>③平成14年12月 1,558m部分供用</p>	1 工区の供用により、緑が丘地区や青葉台地区の住宅団地へのアクセス向上が図られた。	
過去5年間 (H24～H28)	<p>【事業費＝2億円】</p> <p>①事業進捗率 63% (用地進捗率 96%)</p> <p>②用地取得面積約 95,300m<sup>2</sup> (面積ベース進捗率 95%)</p>		
今後5年間 (予定) (H29～H33)	<p>【事業費＝27億円】</p> <p>平成33年度 全線供用予定</p>	全線供用により市街地中心部に流入する通過交通を本路線に転換することで、市街地の円滑な交通を確保する。	



道路-3

# 整備状況

(一) 竜泉那波線 延長2.82km

2工区 延長1.26km

1工区 延長1.56km  
(平成14年12月供用)



- 凡 例
- : 高速道路
  - : 国道
  - : 事業区間(整備中)
  - : 事業区間(整備済)
  - : 県道
  - : 市道



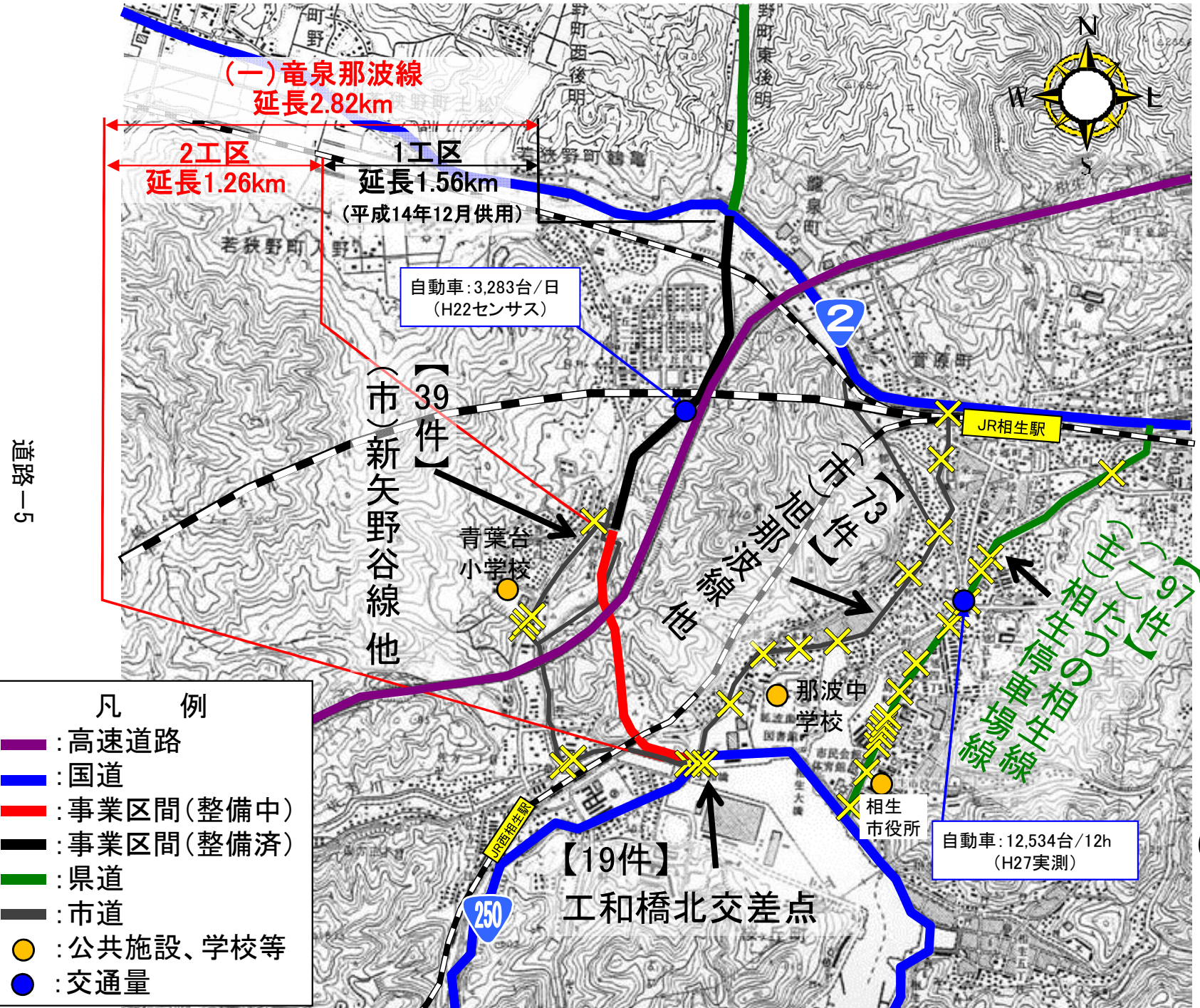
道路一4

至播磨科学公園都市

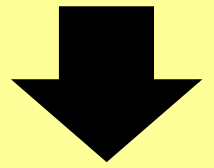
- 平成9年度から1工区に着手。  
平成14年度に供用(1.56km)。
- 平成15年度から2工区(1.26km)に着手。
- 平成29年度から相生市が2工区へ取付く  
市道整備に着手予定。



# 安全で円滑な交通の確保(事故状況)



相生市街地では交通事故が多発



竜泉那波線の整備により、市街地に流入する通過交通が転換することで、市街地の交通事故の抑制を図る

【 】: 人身事故件数(H22~H26)

×: 人身事故発生箇所(H26)

# 産業基盤の強化(ネットワークの形成)

- 凡 例
- : 高速道路
  - : 国道
  - : 事業区間(整備中)
  - : 事業区間(整備済)
  - : 県道
  - : 市道

播磨科学公園都市  
立地企業: 全21社  
うち新規立地企業数  
H18~H23年: 9社  
H24~H28年: 2社

X線自由電子レーザー施設  
SACLA (H23年度供用)



西播磨広域防災拠点



連携支援

(主)相生突栗線

(一)竜泉那波線  
延長 2.82km

1工区 延長1.56km  
(平成14年12月供用)  
2工区 延長1.26km

瀬浜地区物揚場・埠頭用地整備  
(H27年度完成)

国道250号  
坂越道路  
(H27年度供用)

- ・相生市、赤穂市で港湾施設整備が進捗
- ・坂越道路の供用開始(H27年度)により、国道250号経由での赤穂市へのアクセスが強化された
- 本事業によりさらなるネットワーク強化を図る

耐震強化岸壁  
(H28年完成)

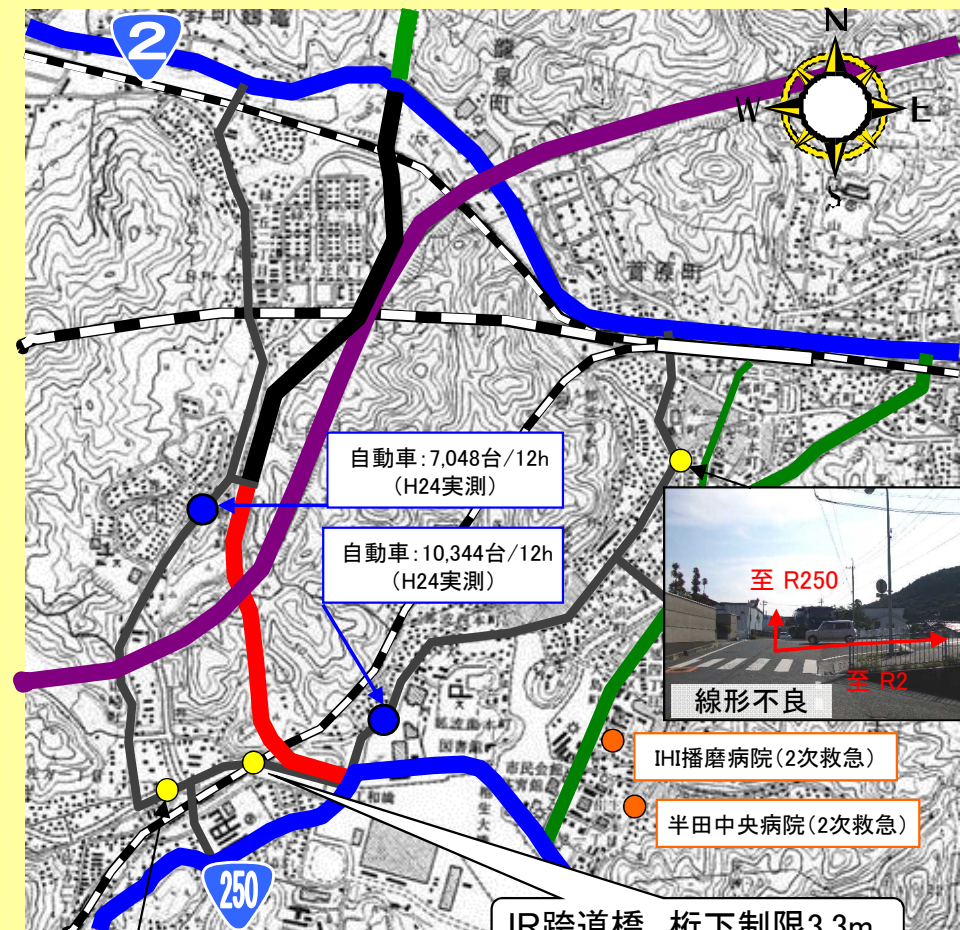
直結!  
播磨科学公園都市と相生市臨海部・赤穂市を

道路—6

# 相生市中心部(拡大図)

未改良区間がある生活道路を多くの交通が往来

➡本路線の整備が地域間交流や産業基盤の強化に寄与



幅員狭小な生活道路

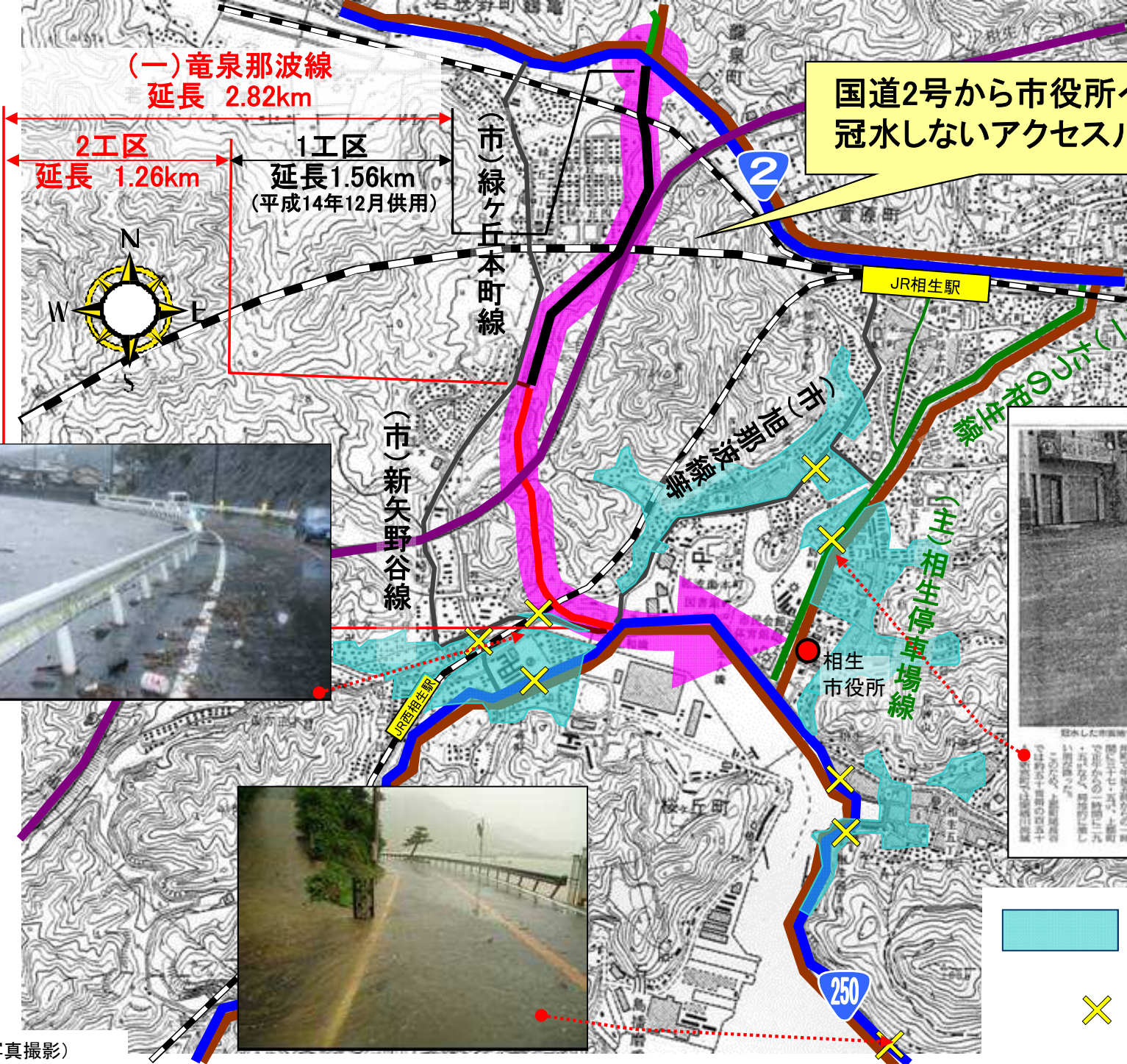


桁下制限3.3m

# 緊急輸送道路の代替経路の確保

- 凡 例
- : 高速道路
  - : 国道
  - : 事業区間(整備中)
  - : 事業区間(整備済)
  - : 県道
  - : 市道
  - : 緊急輸送道路

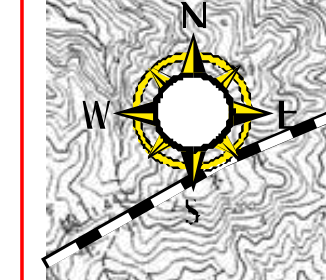
国道2号から市役所へ  
冠水しないアクセスルート



(一) 竜泉那波線  
延長 2.82km

2工区  
延長 1.26km

1工区  
延長 1.56km  
(平成14年12月供用)



■ 平成16年台風第21号  
による冠水箇所

× 冠水による通行止め箇所

道路一7



# 1 スケジュール

工種	1 工 区	2 工 区																		
		H 15	H 16	H 17	H 18	H 19	H 20	H 21	H 22	H 23	H 24	H 25	H 26	H 27	H 28	H 29	H 30	H 31	H 32	H 33
調査・設計	平成 9 5 1 4 年度	詳細設計・用地測量										BOX設計			JR跨線橋設計			BOX設計		
用地補償		[Red bar spanning H15 to H31]																		
本 工 事		土工等	[Blue bar spanning H17 to H24]										[Blue bar spanning H26 to H28]			[Red bar spanning H31 to H33]				
		山陽道横断 BOX	[Blue bar spanning H24 to H25]																	
JR跨線橋	[Blue bar spanning H28 to H29]																			
		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <span>[Blue bar] : 前回評価(H23)</span> <span>[Red bar] : 実施・計画(H28)</span> </div>																		

## 2 事業効果について

### (1) 費用対効果

#### ①便益 (B) の項目

	B(便益)	算出方法
道 路 事 業	①走行時間短縮便益 ○目的地までにかかる時間が短くなることによる便益	整備無し of 走行時間費用 - 整備有りの走行時間費用 走行時間費用: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{走行時間}) \times \text{時間価値原単位} \times 365\text{日}$
	②走行経費減少便益 ○交通の流れがスムーズになり燃費などが向上することによる便益	整備無し of 走行経費 - 整備有りの走行経費 走行経費: $\Sigma(\text{交通量} \times \text{距離}) \times \text{走行経費原単位} \times 365\text{日}$
	③交通事故減少便益 ○交通事故が減少することによる便益	整備無し of 事故損失額 - 整備有りの事故損失額 事故損失額: $\Sigma[\text{交通量} \times \text{距離} \times \text{交差点以外の事故損失原単位} + \text{交通量} \times \text{主要交差点数} \times \text{交差点部事故損失原単位}]$

#### ②費用便益比 (B/C) 算出根拠

事業	事業名	B(便益)		代表的な効果	C(費用) (百万円)			B/C	
		便益額(百万円)			総費用	事業費	維持管理費		
道 路	一般県道 竜泉那波線	全体 事業 費	①走行時間短縮便益	12,809	時間短縮 10.0分→6.0分 計画交通量 7,100台/日	9,122	8,998	124	1.6
			②走行経費減少便益	1,432					
			③交通事故減少便益	398					
			計	14,639					
		残 事 業 費	①走行時間短縮便益	9,229	時間短縮 9.0分→6.0分 計画交通量 7,100台/日	2,174	2,118	56	4.7
			②走行経費減少便益	888					
			③交通事故減少便益	205					
			計	10,322					

### (2) 費用対効果に含まれない主な効果

- ① 市街地中心部の交通混雑緩和に伴う、沿道環境の改善
- ② 播磨科学公園都市と相生市・赤穂市を連絡する道路ネットワーク形成による、地域間交流の促進、地域産業の活性化
- ③ 冠水被害を受ける道路の代替機能確保による、防災安全性の向上

# 道路・街路事業の効果

対象事業:道路事業 (一)竜泉那波線

## (1) 費用対効果

効果項目 (費用対効果の便益内容)	
走行時間短縮	目的地までの時間短縮
走行経費減少	走行速度の向上や走行距離の短縮による、燃料費の節約等
交通事故減少	交通事故の減少による人的損害額、物的損害額及び渋滞による損失額等

## (2) 費用対効果に含まれない効果

○印は当該事業効果の主な項目

評価の視点	効果項目	該当する事業内容
①安全・安心の確保	災害時 緊急医療・緊急物資の円滑な輸送の確保 (※緊急輸送道路の整備、防災拠点・災害拠点病院へのアクセス道路の整備)	○ 西播磨広域防災拠点(播磨科学公園都市内)と相生市、赤穂市を連絡する道路
	救助・救援活動の支援 (※災害時の通行不能や孤立集落の解消)	○ H16の台風21号で冠水被害を受けた(主)相生停車場線の代替機能の確保
	減災対策への取り組み (※二線堤道路、避難路・避難場所としての機能、延焼防止機能の確保)	—
	平時 救急医療体制の支援	—
	交通安全対策	○ 通学路である市道矢野谷線のバイパス機能を有する。
②地域の活性化	地域間交流の促進	○ 近隣市町(播磨科学公園都市、相生市、赤穂市)を連絡する道路整備
	中心市街地の活性化	—
	地域産業の活性化	○ 播磨科学公園都市と相生市臨海部工業地域・赤穂市街地を結ぶ交通ネットワークの形成
	観光支援	—
	地域プロジェクト等支援	—
③円滑な交通体系の確保	公共交通機関利用の促進 交通結節機能の向上	—
④地域の環境改善	沿道環境の改善 景観形成	○ 歩道舗装を透水性舗装とし、雨水を地下に涵養 市街地の交通混雑緩和による、沿道環境の改善

## (3) 地域からの要望状況等

要望状況等	中播磨・西播磨地域11市町から構成される西播磨市町長会・市町議長会等から事業推進の要望がなされている。
-------	---